

## 第 1 回子ども・子育て会議における主なアンケート意見

### 1 計画策定にあたって

主な意見	事務局としての見解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今の貧困は見えにくいので「地域社会全体での対応」が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおり、子どもの貧困問題は見えにくいと言われています。そのため、多くの方に子どもの貧困問題を知っていただき、現状を把握するとともに、この問題を社会問題として社会全体で解決していく必要があると考えております。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域において貧困内容等を把握できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの貧困問題は見えにくいことから、地域における連携した対応が必要であると考えています。そのため1人でも多くの方にこの問題を知っていただけるよう、様々な機会を活用して意識啓発に取り組んでまいります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な人に情報が届くような周りからアプローチできる計画内容としてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおり、必要な人に必要な情報が届くよう、周りからもアプローチできるような取組が必要だと考えております。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスによる影響を勘案した計画策定が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおり、新型コロナウイルス感染症による影響は以前より社会的に弱い立場にあった方ほど大きな影響を受け、子どもの貧困問題を加速させる可能性があると考えております。対策を進めるにあたっては、新型コロナウイルス感染症の状況も見ながら対応していく必要があると考えております。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーディングプロジェクトに関する説明が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーディングプロジェクトに関する説明書きを加えることとします。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相対的貧困にのみ目を向けるだけでは図れないものがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを取り巻く環境を理解する一つとして、子どもの貧困がどのような状況にあるのか把握することは重要であると考えています。ご指摘のとおり相対的貧困だけでなく、虐待やDV対応などのほか、様々な対策と連携した取組が必要であると考えています。</li> </ul>

## 2 子どもの貧困の状況

主な意見	事務局としての見解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数ではなく比率（割合）でデータ比較してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおり、比率による推移の方がより傾向が掴めると考えておりますが、データによっては比率の算出が不可能なものもあることから、人数での掲載となっているところです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活保護を受給している18歳以下の子ども的人数を、18歳以下の小児人口に占める割合で示してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活保護を受給している18歳以下の子ども的人数は、年度内に生活保護を受給した人数で計上しており、基準日を定めて計上する小児人口との比較では適切なデータを得られないものです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学援助受給率は各自治体で基準等が異なるため国や県との比較は難しいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおり、国や県と一概に比較できるものではありませんが、子どもの貧困問題を把握するうえで、本市の就学援助の状況を把握することは、経済的に困窮している家庭が一定数いることの証左でもあることから掲載したところです。</li> </ul>

## 3 鹿児島市子どもの生活に関するアンケート調査結果の概要

主な意見	事務局としての見解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが進学を諦めない様に奨学金制度等について早いうちからの説明が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学資金貸付制度や就学援助制度等の周知は、市民のひろばや市ホームページのほか、学校や児童・生徒に文書による案内を行っているところです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子世帯の生活困窮をどう救済するのが大きな課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度の調査結果を踏まえ、ひとり親家庭等ガイドブックの作成やひとり親家庭等総合相談会の開催など、ひとり親家庭に対する支援の充実を図ってきているところであり、引き続き、ひとり親家庭に対する支援を行ってまいります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食を抜くことは身体に大きなダメージとなることの意識付けも必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食をはじめ、規則正しい生活習慣が子どもの成長に必要であることを保護者に伝えていくことも大切であると考えております。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「経済的な理由から希望する進学を果たすことができない」という考え方に疑問。いくつになっても学ぶことはでき、経済的理由だけで将来を諦めるのは違うと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおり、高校・大学への進学が最終ゴールではありませんが、現在の社会においては学歴による就労状況に差があるのも事実であり、進学については、学びの在り方や様々な支援などについて子どもたちに知らせる取り組みも重要であると考えております。</li> </ul>

#### 4 調査結果からみる本市の課題

主な意見	事務局としての見解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの持ち物を見ると大きな差が無いので、このデータから子どもの貧困は分かりづらい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな差ではないかもしれませんが、家庭の状況によって子ども部屋や学習机などの所持率に差がある事から、家庭における学習環境に差があると考えております。一方、ゲーム機や携帯電話等は相対的貧困家庭においても所持率が高く、子どもの貧困問題は目に見える持ち物からは分からないという結果も出ており、この問題が見えにくいことの表れであると考えております。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事と子育ての両立がしやすい労働環境の整備が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業を支援するとともに、仕事と家庭の両立に取り組む企業に対する国の助成金等について、周知・広報に努めてまいります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談しやすい窓口をつくること、また相談機関の周知が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市では、親子つどいの広場やこどもと女性の相談室など、子育ての悩みについて来所や電話により気軽に相談できる窓口を設置しています。また、これらの窓口や各種支援事業の情報については、パンフレットやウェブサイト等により周知を図っているところであり、今後も必要な方に必要な情報が届くよう、さらなる周知広報に努めてまいります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果を見ながら施策の検討が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対策を進めるにあたっては、効果等も考慮しながら検討してまいります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の状況に応じた支援や関わり方が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおり、一人一人の状況に応じた丁寧な支援を行うことが重要であると考えており、生活保護や児童虐待・DV等の個別相談を行う中で、適切に対応してまいります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関することは学校にも原因があるのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校では、教職員の資質向上を目的に計画的に職員研修を行い、児童生徒にとって分かりやすい授業ができるよう努めています。今後も、家庭との連携を図りながら、一人一人の学習状況を踏まえた授業の実践に取り組んでまいります。また、児童生徒との教育相談の充実に努めてまいります。</li> </ul>

#### 5 計画の基本的考え方

主な意見	事務局としての見解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大綱の4項目に沿った、さらなる支援の構築に努めていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大綱の4つの柱に沿った取組を進めながら、子ども達が夢と希望を持ち生活できる社会の構築に努めてまいります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困対策として貧困家庭の子どもだけを対象とするのではなく、全ての子どもに対する支援を考えていただくとスティグマを生じさせないことになると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおり、支援対象を区切ることで偏見等が生じる場合もありますので、対策の検討にあたってはそのことにも留意しながら取り組んでまいります。</li> </ul>

## 6 施策の概要

主な意見	事務局としての見解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの支援の取組として多様な体験活動の場を提供とあるが、具体的な事業が無いのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの体験活動に関する支援としては、子ども食堂支援や青少年の翼事業などが該当すると考えておりますが、引き続き、多様な視点で体験活動の場を確保できるよう検討してまいります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島市こども・子育て支援事業計画に基づいた事業の確実な実施をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画は、第二期鹿児島市子ども・子育て支援事業計画を先導的に進めていくものであり、各事業については、同事業計画に沿って着実に実施してまいります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・質の高い教育に関して、幼児教育・保育に関しては自然の中でたくさん仲間と遊び、ゆとりある時間の過ごし方が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質の高い教育とは学力・学習のみを指すものではなく、遊びや体験活動など、子どもの様々な学びを通じた人格形成につながる取組であると考えております。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの支援では幼児教育・保育を質の高いものにするために職員等への研修機会の提供、また園外活動への補助事業など、就学前の支援の検討も必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所等への補助を通じた職員研修や地域活動支援を行っているところであり、こうした取組を引き続き行うことで、質の向上に努めてまいります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が細分化されており、知らないものや利用するのにハードルが高い面もある。困難な状況を抱えた方を早期にすくい上げて、事業の周知や、利用につながるサポートの徹底を望む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご指摘のとおり、事業が細分化されていることで利用者からは分かりにくい面があることと思います。また、困りごとを抱えた方は複数の課題を抱えていることもありますので、早期支援・必要な制度へのつながりを確保するためにも、関係機関が連携した支援に努めてまいります。</li> </ul>

## 7 その他

主な意見	事務局としての見解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貧困家庭で育った子ども達の学力が低いと、進学・就職の場面で不利であり、貧困のスパイラルから抜け出すのが難しくなる。よって小学校などの早い段階での支援が必要。放課後子ども教室をうまく活用してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご指摘のとおり、子どもの貧困問題は世代を超えて連鎖する場合もあり、早い段階での適切な支援が重要だと考えております。          なお、放課後子ども教室については、週1回、異年齢集団のよさを生かした学習・体験活動等を行うものであり、その充実に今後も努めてまいります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貧困により十分な食事を摂ることができないということがないよう、施策の中で検討していただきたい。コロナの影響で子ども食堂の活動も難しいので、子ども食堂への支援も行ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、多くの子ども食堂が活動自粛を行うなど、なかなか活動ができない状況がありました。そこで、市と「かごしまこども食堂・地域食堂ネットワーク」が連携して、子どもの食事の確保の観点から「地域の飲食店子ども食堂プロジェクト」という事業を立ち上げ、各子ども食堂が地域の飲食店で利用できるチケットを、子どもや家庭に配布しています。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況も見ながら、子ども食堂実施者とも連携した子どもへの支援を行ってまいります。</li> </ul>